



OB・OGからのメッセージ ～現役時代の思い出～



6期 北島正

1972年（大学2年の時）私はキャプテンになりました。当時は学園紛争まっただ中で、理工学部もロックアウトされ、入校もままならない時代でした。夏の合宿は、例年相模湖で神奈川県を借りて行っていました。ところが、この年から川への乗り入れが禁止され、ロングが漕げない状況になりました。困った我々は早稲田理工の紹介を受け、福島県茨野に民家を借りて合宿を実施しました。（福島県の高校で使う県のナックルを借りてのものでした）オールと鍋、釜、食器を梱包して送り、大変な思いで合宿してました。そんなある日、練習していた只見川が、台風の影響で増水し、出艇禁止になってしまいました。やむをえず艇庫前で陸トレしていると、上流からなんと家の屋根が流れてきました。大雨で流された、民家が流されてきたのです。皆呆然とその光景をみていました。そんな凄まじい光景も、今では貴重な体験として、記憶に残っています。いろいろな経験をさせてくれたポート部での活動はこの歳（70歳）になってもいい思い出です。

6期 金子健一
神崎真一
小松祥男
水上善世

私たち6期生が現役のころ、練習は1週間のうち平日に2回の陸トレと週末に乗艇を行っていました。練習は漕ぐハ陸トレのイメージです。平日の練習では3号館の場所にあったウエイト器具を借りたり、皇居や不忍池、キャンパス回りでランニングをしたりしました。愛宕神社の階段でうさぎ跳びをしたのもいい思い出です。乗艇練習で使用していたのはナックルフオアやナックルシックスといったナックル艇が中心でした。たまにエイトにも乗りました。当時出漕していたレースは理工系レガッタと相模湖レガッタの二つでした。一番の思い出は、相模湖レガッタの1か月前から一軒家を借りて30人ほどで合宿したこと。合宿期間中は一日20〜30kmほど漕ぐなどハードな合宿でしたが、土曜の晩のカレーや日曜のオフが楽しかったです。大学の体育のポートの授業を2週間ほど手伝いそのバイト代を合宿費に充てていました。内藤さんをはじめとする卒業生が変わるがわるシゴキを入れに来ました。私たちの世代が作った白門理漕人とミニオールという文化がいまでも続いていることはうれしいことです。これからも理工ポート部の歴史が続いていくことを願っています。



7期 中本順夫

今から50年前の昭和43年4月に入部。その年の5月、戸田で行われた第1回理工戦で3年生のクルー（C水上さん、S原さん、3吉川さん、2小川さん、B小柳さん）、S樋口さんの無ペアの2艇が優勝。大会後のコンパではビール瓶2本も入る優勝カップでの祝杯をイッキ飲み、その後は茶碗で日本酒を飲み自宅に帰るまで6回も嘔吐し、人生初の3日酔いの洗礼を受けました。翌年の春から学生運動が始まり練習もままならず、同期は殆んど辞めて4名となりました。現役時代の漕歴は1・2年の相模湖レガッタ、3年になって東京経済大学との定期戦、荒川で2000回借敗、お花見レガッタ3位、全日本大学ナックル選手権4位と定期戦を除いてナックルのレースでした。再びポートを漕ぐ様になったのは4年前の理工戦OBエイトのレースと、懇親会で東工大OBをメインとするペンタローイングクラブとの出会いです。毎週土曜日にエイトやスカルの練習を行い、中高年の漕手で横浜市民レガッタやマスターズなど様々なレースに参加してポートを謳歌しています。10月に琵琶湖で行われた「がいつぶりレガッタ」では初めて優勝メダルを獲得しました。今はシנגルスカルでレースに出ることを目指して練習に励んでいます。

7期 中山雅之



私が入学した年は安保闘争から続いた学園紛争の最終年で、学校側は校舎をロックアウトし、授業も部活もなかった時代でした。中央大学では、私が1年生の12月から翌年8月までロックアウトが続き、進級出来ませんでした。幸いなことに、ポート部は戸田が有りましたので、学園紛争を横に見ながら戸田でポートを漕いでいました。昭和44年春は進級も、春休みもありません。戸田で合宿し、夏には福島県茨野漕艇場での合宿となりました。福島県の大広間での生活、食事当番、近所の人との交流など、色々な思い出が生まれました。茨野漕艇場は自然豊かな環境にあり、ナックルフオアで川面を漕ぎ上がると鬱蒼とした川辺の森から鶯が盛んに鳴いて、水の中には名前も知らない魚の姿が見られました。流れが結構あるので少し休むと下流に流され、慌てて漕ぎ上がることも練習のいい糧となりました。翌年の合宿は、漕ぎながらギックリ腰になり2日間も合宿所で寝ていたり、合宿の帰りに一人磐越西線を通湯に行き、瀬波温泉で海に沈む夕日を見ながら海の幸を食べたりと思いは尽きません。現役の皆さんも日頃と違う、二度と作れない思い出を是非作ってください。

9期 四方田淳一



私がマネージャーの時、中大理工ポート部初めてのシエルフォア購入の件をお知らせします。まず、荒川区尾久にあるデルタ造船所へ行き、購入手続きはどうすればいいのか営業課に聞きました。対応した課長は「中大理工ポート？」そんなポート部あるのかという表情でした。フォア1艇55万円で、手付金20万納めれば製作に入り、残金は艇引き渡し時の支払いでしたが、本当に大丈夫か？と言われたので手付金30万納めました。デルタ造船は社長、中樞部が早稲田漕艇部出身です。夏休みの2週間デルタ造船で、同期、同学の福島とバイトして、昼休みにシエル製作の場所へ行きどれが我々の艇かと思物したものです。彼は残念ながら急性白血病で24歳で亡くなりました。ところで、シエルは船底の形が3種類あり、スピードがでる周周タイプ、バランス重視の箱型タイプ、それらの中間タイプとあり、本チャンに聞いたら、周周タイプをお前が乗りこなせるわけないと言われて中間にしました。プレード迄は無理でした。あれから45年の月日が過ぎました。デルタ造船も荒川区にはありません。

13期 深堀勝博



スミス出展時、テューリッピFIFA本部にてWorld Cupフリカとともに

軽い気持ちで加入したポート部は本チャンで、入学直後から秋まで合宿が続く。学校はサボって練習三昧の生活に危機感を覚えた頃に理工ポート部の存在を知り、2年次から移籍しました。理工ポート部では理工系レガッタ、インカレ、全日本にエイト、フォア、ペアで参戦しましたが、満足できる成績を得ることなく、辛い記憶だけを残す結果でした。唯一の成果は「根性」の養成でしょうか。学校の試験では悪事の限りを尽くして何とか4年間で卒業し、製薬会社に就職後、生産、研究、開発、調達、物流、営業を経験する中で、研究時代の上司に「親が喜ぶ」とそのおかげで薬学博士の学位を取得し、その後取締役となったことから中央大学からお声がかり、八王子校舎で「リーダーシップ」をキーワードとして学生に講演する機会がありました。前職を辞任後、1年間は遊びまわりましたが、育ててもらった製薬業界への恩返しを兼ねて、新たな製薬会社で若い世代の指導を始めました。ポート部時代に「リーダーシップ」や「指導・育成」の難しさを学習し、会社組織でも難しさを痛感してきましたが、次こそは満足できる結果を手にしたと目論んでいます。

15期 岡崎充



卒業後、オートバイメーカーとライメンフランチャイズ本部に勤め、32歳で起業。起業のコンセプトは「大企業がやらないやれない事業しかやらない」というもの。今年で30周年を迎えます。加えて今年7月に出版社との共同会社を設立しCEOとなりました。選歴過ぎていますが、ビジネスやつる時が一番楽しいです。家庭は、子供3人と孫6人に恵まれ、子育てを全て任せたい奥さんに感謝しかありません。現役時代最大の思い出は、大学4年最後のレース、関東理工系レガッタです。この時代、勝つために最強の4人を選び60日間の戸田合宿に臨みました。ところがレース4日前にクルーの仲間割れがあり、1人が合宿所から居なくなりました。自宅まで行って説得。なんとかレースには参加できたのですが、気持ちの合わないメンバーが漕ぐ船は進むわけもなく惨敗です。この経験がその後の私を大きくしてくれました。チームビルディングする際、個の能力の高い者だけを集めてもチーム力は上がらない。ポートも仕事も同じです。ここでの経験と学びの全てが、今の私につながっているのです。

19期 棚岡充雄



イージス艦こんごう艦長時代。

すでに平成も終わろうとしており、時間の流れの早さを感じる次第です。ポート部での一番の思い出は、幸運にも同級生で付フォアのクルーが組めたことで、相模湖、理工系、全日本新人そしてインカレと出漕し、当然苦しいこともありましたが、総じて楽しく過ごせたことです。また、合宿所の「あの部屋」での雑魚寝生活と飯炊き、そして、朝夕の練習も良い思い出であり、私の財産であると感じます。厳しい練習や、苦しいレースを通じて心身に鍛えられ、卒業後、海上自衛隊幹部候補生となり江田島での集団生活に入りましたが、精神的、肉体的にまったく問題なく順応できたことを思い出します。自衛隊では、イージス艦こんごう艦長などの配置をいただき、厳しいこと多い日々でしたが、時には楽しみながら無事に過ごせたのも、あの合宿のおかげかと思っています。今は、自衛隊を定年退職し、伊勢三河湾で水先人（みずさきじん）という仕事に就いています。水先人とは、外国と日本を行き来する貨物船等を、船長に代わって操船して、湾内や港内を安全かつ効率的に航行、離着岸させるのが仕事

です。ざっくり車で例えると「運転に慣れてない人の代わりに車庫の出し入れをしてあげる」という感じ。タンカーとか、自動車専用船とか様々な種類の船を扱うので、港の特性と、それぞれの船の特徴を把握しなければならぬので、まだまだ修行の日々です。何だか、水の上にいることが多い人生となりました。



20期 宮路 勝善

夏祭りの集合写真。右端、上が私です。

30数年前を思い返してみます。正直な所、レース成績はあまりパツとしなかった。チャンからエイトを借りて出艇した時の事。先頭集団との差があまりにも開いた為、審判艇がやむなく我が艇を追い越した。モーターボートが出す不規則な波がオールに当たり、8本のオールが刻むリズムを狂わせた。舷に当たる飛沫で全員がずぶ濡れになりながらゴールにたどり着いたものの、悔しさと情けなさがこみ上げた。

当時は戸田での合宿練習がメインだった。チャンが使用する合宿所にある理工部屋を借り、そこで寝起きしながら乗艇を中心とした練習に明け暮れた。朝夕の賄い、合宿所の掃除もチャンと共にこなした。朝飯の定番のおかずであった野菜炒めが水っ

ばいだの、夕飯で作ったポークチャップの味付けがおかしいだの上級生からはよく叱られた。部屋における自分のスペースは万年床のみ。ちなみに布団を干した記憶は全くない。

4年生の命令に対し下級生は絶対服従であった。不本意で終わったレースの反省として、戸田漕艇場を泳ぐよう命令された下級生らがこれに従い泳ぎ出した。しかし、そのうち一人が途中で溺れてしまい、救急車で搬送される騒ぎとなった事もある。東京のコカ・コーラを買ってこいと命令されて、県境の荒川に掛かる戸田橋を渡って隣の東京都まで買いに行った者もいたと聞く。

残念ながらレースでの栄光は掴めなかったものの、ボート部を通じて思い出を一人一借得た様だ。(加えて、ミニオールも得る事が出来ました。)今は建設機械メーカーに勤めています。間も無く定年となりますが、次のステージでも頑張っていきたいと思えます。現役の皆さんの更なる活躍を楽しみにしております。



21期 十川 幸夫

新婚旅行以来の海外旅行(パリ)定年退職祝いに、妻に連れられて。

理工学部では有りがちですが、私ごと2単位不足で留年、5年生となりました。

就職活動ではいろいろ考える時間があり、「そうだ、海上自衛隊へ行こう！」



25期 堀田 淳

卒業後、都市銀行と米国資本の生命保険会社を経て、現在はエグゼクティブ・コーチをしています。企業トップ及び役員を10年以上でコーチし彼らのリーダーシップ開発を通じて、組織風土改革を行っています。

ボート部時代の思い出は多々ありますが、中でも部の存続をかけた新人勧誘が一番の思い出です。金谷先輩、和田先輩、そして同期の藤田君と私の4人しか残らない状況。とにかく部員を集める必要があったため、他大学に友達私の高校の同級生女子に頼んで友達を連れて来てもらい、何人かで「女子マネ」になりました。そして、うぶな新入生をやさしく勧誘し「試乗会」におびき寄せ、戸田で4人が入部を迫るという画期的な手法で理工ボート部存続の危機を乗り越えました。

現在は、2014年に発展途上国に井戸を掘る資金を集めながら東海道五十三次を2週間で踏破してから、超長距離ウォーキングにのめり込み、週末や休暇は街道歩きとウルトラウォーキングを楽しんでいます。ボート部のイベントにはなかなか顔を出せませんが、美味しいものを味わう旅のように毎日を楽しんでいます。皆さまのご活躍と、何より理工ボート部の発展をお祈りしております。



27期 川島 宏幸

下水処理場建設工事の竣工時。平成29年12月撮影。

私は平成4年3月に大学を卒業し、今年で満50歳となります。早いものであれから約26年半が経過しました。生来の楽観的な性格が幸いし、今となってはボート部時代は、古き良き思い出しか残っていません。例えば「合宿所での雑魚寝生活と卵かけご飯」、「満開の桜と桜吹雪(漕艇場の桜並木)」、「中華楼(戸田公園駅近くの定食屋)で食べたオムライス(大盛り)」等々。挙げたらきりがありません。

私は大学卒業後、建設会社(ゼネコン)に就職しました。最初の赴任地は大阪市で、地下街建設工事の現場でした。土木構造物は工場生産とは異なり、現場ごとの一品生産です。同じ形状の構造物をつくる場合でも、地盤条件や周辺環境条件によって、つくり方は様々です。そこが、土木の難しさでもあり、面白さでもあります。また、工事が無事に完成した時の達成感も格別です。仕事(土木現場)を通じて、「自然(水、大地、気象など)」と真摯に向き合うこと」と「他者と協調すること」の大切さを、日々痛感しています。



23期 木村 忠史

という、4年生ギリ卒ではあり得なかつた結論に達しました。こうなること、入隊に備えて気力、体力の維持向上を図ろうという自己方針と、かわいいう後輩からの「一緒に合宿しましょうよ!」の呼び掛けに反応し、5年生ですが合宿することになりました。思い起こすと、現役4年間では幸運にも1年生でエイトを組んで全日本新人に出漕、以降は8名位いた同期生は3名に激減、後輩部員の確保も厳しい状況の中、付フオア主体で関東理工系、相模湖レガッタにどうにか出漕していたように思います。そして、5年生で熱く燃える現役3年生と組んで出漕したのは、付フオアの全日本選手権。結果はともあれ、自身も熱く燃え、そして充実したボート部生活を終えることができました。

5年生という回り道が転機となり、全日本選手権に出漕、海上自衛隊に幹部候補生として入隊できたと思えます。その海上自衛隊も今年の11月5日に定年退職となりました。今、第2の人生を歩み始めたところです。



28期 窪田 泰仁

長い受験勉強が終わり、希望を持って精密機械工学科に入学しました。浪人生活ですっかり体がなまり、なにか大学では運動をしたいと考えていたと思えます。入学式で縁あって、理工ボート部に入部しました。

早速、中央大学ボート部合宿所の理工部屋での合宿生活が始まりました。最初は4時や5時の起床に戸惑いながらも、単調な浪人生活からの開放感からあまりつらいとは思わず、むしろ楽しかった記憶があります。それは同期が多かったことに加え先輩のキャラクタが面白く、すっかり理工ボート部に溶け込んでいったと思えます。

合宿所生活に加え、休み時間や放課後の部室での談話も楽しみのひとつでした。理工ボート部メンバーで飲みやバイトをやり、深い関係が築けたのだと思えます。先日も理工ボート部の先輩、同期、後輩と飲みました。大学の先輩と違和感のない雰囲気でお酒を飲め、華々しい肝心のボート競技では、華々しい成績を残すことはできませんでしたが、付きフオアでインカレに出場できたのは良い思い出となっています。現在は、精密機器メーカーでエンジニア(機械設計)をしております。理工ボート部で鍛えた体力と協調性は、今の仕事にも活かしています。



24期 和田 一郎

1985年、西側国のみ参加の片肺開催だったロス五輪の翌年に、私は中大理工漕艇部へ入部しました。1年生時は、4月末の理工系レガッタを目標に入部後すぐの4月中旬から戸田合宿(理工部屋)に入り

ました。当初入部希望者が10人程度いたと思いますが、毎日のように文字通り「夜逃げ」者が出て、1週間後には2人に減っておりました。結局この2人(金谷さんと私)が4年最後までの同期部員となりました。2年生になってからは後輩の入部に力を入れて、結構部員も増えたのですが、体育会体質が嫌われたのか定着率が低く、3年生時には我々2期2人と、25期2人の計4名しかいなくなり、合宿も理工部屋が使えず(飯炊き、掃除当番がこなせない)、私の下宿先で合宿したこともあるくらい、部活動としてつらい時期でした。

4年間を通して競技では大した成績を残せなかったのですが、合宿生活での濃密な人間関係や体力の限界までの追い込み、五輪候補選手との共同生活等、理工漕艇部で体験したこと、社会人となった今でも良き思い出です。これからもOBとして寄付を続けさせて頂くことで、中大理工漕艇部の更なる発展に貢献できればと思っております。



31期 岡田 健次

31期の岡田です。ボート部とは転勤などで疎遠となった時期もありましたが、同期の中島監督に誘われ、2年前からOB会幹事として関わることがになりました。

10数年ぶりにボート部に関わるようになってまず驚いたのは、部員の多さと、皆がボートに対する理論に長けている事でした。最後に関わった時は山下君が主将の頃で部の存続が第一目標でしたが、私が現役の頃は人数がいて活気はありました。理論より根性という時代であり、1年のうち8ヶ月ほど戸田で合宿し乗艇していたにも関わらず誇れるような成績は残せませんでした(あの「はちゃめちゃ」な合宿生活は一生の思い出ですが)。その点、今の現役は艇の不足と通い練習であるため十分な乗艇ができない中、陸連と理論を活用ししっかりと結果を残している事に、驚きと羨ましさを感じました。

今回55周年を迎えたボート部ですが、このように時代に併せて進歩できる事こそボート部の本当の強さなのかなと思います。これからも現役・OBが力を併せ、この伝統ある部を盛り上げていければと思います。